

炎から誕生

火山活動が、とかち鹿追ジオパークの景観を形作ってきました。100 万年の時を経て、かつては海だった場所に陸地ができ、新たな山々が生まれ、川がせき止められたことで然別湖が誕生しました。

十勝平野の形成

十勝平野の形成は、約 1,300 万年前に二つの大陸プレートが衝突したことから始まりました。この時の衝突により日高山脈が誕生し、現在の十勝エリアに構造盆地が生まれました。盆地はかつて現在よりもはるか内陸に伸びていて、太平洋の水面下にありました。何百万年もかけて、その盆地には堆積物が蓄積されていきました。およそ 100 万年前の鹿追北部の巨大火山の噴火など、火山噴火や十勝川とその支流の河川作用を含む、さまざまな地質学的過程を通じて蓄積されていきました。かつては海だった場所に徐々に湿地帯が形成され、これが今日の十勝平野になりました。

新たな山々の登場

然別湖周辺の山々は、然別火山群の一部であり、様々な時代の成層火山と溶岩ドームから形成されています。最も古いのは、北ペトウトル山 (1,400 メートル) と南ペトウトル山 (1,348 メートル) です。山々の形成は、現生人類が進化したころにあたる約 30 万年前に始まり、その後 20 万年間続きました。いずれの山も成層火山であり、粘性が低く流れの遅い溶岩が繰り返し噴出することで山ができました。より若い山々は、6 万年前から 10 万年前の間にできたものです。これらの山々は溶

岩ドームです。粘性のある溶岩が、流れていくことなく噴出口の周りに積もって山ができました。湖周辺の溶岩ドームの多くには、同じ大きさの岩のかけらが多いた斜面があります。これは、凍結・融解による風化と、摩擦による破砕が組み合わさってできたものです。4 つの溶岩ドームの中で高いのは西ヌプカウシヌプリ山（1,254 メートル）と東ヌプカウシヌプリ山（1,252 メートル）であり、他に白雲山（1,187 メートル）と天望山（1,173 メートル）があります。

湖の誕生

然別の溶岩ドームは、地形に大きな影響を与えてきました。溶岩ドームの形成により、川の流れが妨げられました。川が徐々にせき止められた結果、然別湖ができました。この湖は 3.4 平方キロメートルにおよび、湖岸は 13.8 キロメートルあります。しかし、元々の湖はもっと大きく、北と西にさらに広がっていたのです。川がせき止められていたのは一時的なものであり、水は結局谷を通る別の出口を見つけました。それが湖の南西部です。然別地域の地形は、このジオパークの景観を形作った強い力を実際に見せています。